

## 中央アジア関連研究文献リスト 2009

本リストは、2009年（1月～12月）に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆および旧ソ連領のムスリム地域およびその周辺地域に関する学術文献をリストアップしたものである（理科系のものを除く）。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや事典項目等は除外した。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

### 書籍

- 猪口孝編『アジア・バロメーター 南アジアと中央アジアの価値観：アジア世論調査（2005）の分析と資料』明石書店（8,000円＋税）
- 「トルクメニスタンの政治、経済、社会の変化と国民の選択」（ティムール・ダダバエフ）
- 「中央アジアで移行はどのような影響を及ぼしているか：ウズベキスタンにおけるイデオロギー、経済、価値体系の変化に対する対応」（ティムール・ダダバエフ）
- などを所収
- 宇山智彦、クリストファー・レン、廣瀬徹也編『日本の中央アジア外交：試される地域戦略』北海道大学出版会（1,800円＋税）
- 「対中央アジア外交の概観：実務レベルでの政策立案者の視点から」（廣瀬徹也）
- 「対中央アジア政策の推移：シルクロード外交から「中央アジア＋日本」へ」（河東哲夫）
- 「ユーラシアへの「価値の外交」は定着するか：「自由と繁栄の弧」構想とその後」（湯浅剛）
- 「対中央アジア外交の歴史的文脈と展望：アジア主義と日米関係のはざままで」（宇山智彦）
- 「対中央アジア協力の現状と課題：機能主義の観点から」（ティムール・ダダバエフ）
- 「上海協力機構：「反米」ゲームの誘惑に抗して」（岩下明裕）
- 「現代グローバル化の下での日本のエネルギー戦略：西アジア・中央アジアの場合」（嶋尾孔仁子）
- などを所収

大杉卓三『情報ネットワークで結ぶシルクロード：国際開発協力にみる現代中央アジア』中国書店（1,785円）

Onuma, Takahiro, *250 Years History of the Turkic-Muslim Camp in Beijing*, TIAS Central Eurasian Research Series No.2, TIAS: Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo（非売品）  
Yayoi Kawahara & Koichi Haneda (eds.), *Muhammad Ḥakīm khān, Muntakhab al-tawārīkh*, Selected history, vol. I, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa（非売品）

窪田順平、承志、井上充幸編『イリ河流域歴史地理論集：ユーラシア深奥部からの眺め』松香堂（3,800円＋税）

「ジューンガルの支配体制に関する基礎的検討」（小沼孝博）

「乾隆・嘉慶期における新疆北部ダルダムトゥ金鉱の開採問題」（村上信明）

「清代イリにおける民人社会の形成とその諸相」（華立）

「イリ事件再考：ロシア統治下のイリ地方（1871-1881年）」（野田仁）

「中国とロシアの霍爾果斯河国境交渉：中露の外交地図、外交档案を手がかりに」（陳維新）  
などを所収

菅原純『現代ウイグル語小辞典』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（非売品）

濱本真実『「聖なるロシア」のイスラーム：17-18世紀タートル人の正教改宗』東京大学出版会（7,200円＋税）

前田弘毅編『多様性と可能性のコーカサス：民族紛争を超えて』北海道大学出版会（2,940円）

「コーカサス史の読み方：歴史における「辺境」と「中心」」（前田弘毅）

「中央アジアとコーカサス：近くて遠い隣人？」（宇山智彦）

「コーカサスをめぐる国際政治：求められるバランス外交」（廣瀬陽子）

「チェチェン紛争の現在：野戦軍司令官からジャマーアット・アミールへ」（北川誠一）

「ダゲスタンのイスラーム：スーフィー教団間の多元主義的競争」（松里公孝）

「特権的トボスのはじまり：コーカサス表象の原型と「他者の声」について」（中村唯史）  
などを所収

前田弘毅『イスラーム世界の奴隷軍人とその実像：17世紀サファヴィー朝イランとコーカサス』明石書店（7,000円＋税）

松長昭『簡明 日本語－アゼルバイジャン語 アゼルバイジャン語－日本語 辞典』国際語学社（4,800円＋税）

森本一夫編『ペルシア語が結んだ世界：もうひとつのユーラシア史』（スラブ・ユーラシア叢書）北海道大学出版会（3,000円＋税）

「ペルシア語文化圏におけるスーフィー文献著述言語の変遷とその意義」（矢島洋一）

- 「イスラーム法とペルシア語：近現代西トルキスタンの法曹界」（磯貝健一）  
「中央アジアにおけるテュルク語文学の発展とペルシア語」（菅原睦）  
「18世紀クリミアのオスマン語史書『諸情報の要諦』における歴史叙述：ペルシア語  
文献からの影響を中心に」（川口琢司）  
「清代の中国ムスリムにおけるペルシア語文化受容」（中西竜也）  
などを所収

## 論文

- 青木恭子「帝政末期のアジアロシア移住政策をめぐる一考察：移住を許可された世帯の分析」  
『ロシア史研究』84, 24-46頁
- 秋山徹「20世紀初頭のクルグズ部族首領権力に関する一考察：シャブダン・ジャンタイの  
葬送儀式的分析をてがかりとして」『内陸アジア史研究』24, 83-104頁
- アナトラ・グリジャナティ「中国における少数民族双語教育に関する研究：多言語共生の視  
点から」『飛梅論集』（九州大学大学院教育学コース院生論文集）2009年9号, 17-32  
頁
- アナトラ・グリジャナティ「中国の少数民族双語教育における母語の位置づけ：新疆ウイグ  
ル自治区の民族教育をめぐって」『国際教育文化研究』（九州大学大学院人間環境学研  
究院国際教育文化研究会編）9, 125-137頁
- 石田紀郎「アラル海と環境問題」『人口と開発』107, 27-37頁
- 井尻直彦「中央アジア5ヵ国中国の直接投資立地決定要因」『経科研レポート』（日本大学経  
済学部経済科学研究所）34, 33-37頁
- 宇山智彦「グルジア紛争後の中央ユーラシアとロシア：小国のバーゲニング・パワーが作る  
国際秩序」『現代思想』2009年3月号, 206-217頁
- 宇山智彦「中央アジアを理解するための6つの鍵」『外交フォーラム』2009年6月号,  
38-41頁
- 加々美光行「ウルムチ暴動と中国の危機：「開発援助」は何をもたらしたか」『環』39,  
20-35頁
- 加々美光行「中国の民族主義の変貌とウルムチ事件：天下主義と「普遍一特殊」ナショナリ  
ズム」『情況 第三期』10(9)(通号88), 6-29頁
- 梶浦岳「クルグズ共和国における農牧業の地域的特性」『地球環境研究』（立正大学地球環境  
科学部）11, 139-149頁
- 河野明日香、大杉卓三、大谷順子「中央アジア諸国におけるコミュニティ研究：ウズベキス

タン、タジキスタン、キルギスにおける女性のコミュニティ活動を中心に」『アジア女性研究』18, 83-95 頁

Kikuta, Haruka, "A Master is greater than a father: Rearrangements of tradition among Muslim artisans in Soviet and post-Soviet Uzbekistan," D. C. Wood, ed. *Economic development, integration, and morality in Asia and the Americas (Research in Economic Anthropology 29)*, UK: JAI Press, Emerald, pp. 89-122.

久保慶一, 西山克典, 鳥山祐介, 家田修, 宇山智彦, 松里公孝 『講座 スラブ・ユーラシア学』 批評と応答 『スラヴ研究』 56, 215-243 頁

小嶋祐輔 『『民族』化される格差：新疆ウイグル自治区を例に』『中国21』30, 193-212 頁

小松久男, 後藤寛 「中央アジアの動態を読む：GISによる地域研究の試み」水島司, 柴山守 編 『地域研究のためのGIS』古今書院 (3,500円+税), 95-112 頁

酒田剛 「資源国としての存在感が高まるカザフスタン：金属鉱物をめぐる最近の動向と注目点」『金属資源レポート』38 (4) (通号369), 433-445 頁

坂元一光, アナトラ・グリジャナティ 「新疆ウイグル社会の女兒に対する産育及び教育：中国少数民族の子どもとジェンダー」『大学院教育学研究紀要』（九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門）10 (通巻54), 151-165 頁

櫻間瑛 『『受洗タタール』から『クリャシェン』へ：現代ロシアにおける民族復興の一樣態』『スラヴ研究』56, 127-155 頁

澤井充生 「ムスリム・コミュニティにおけるフィールドワーク：中国寧夏回族自治区の事例」『人文学報』（東京都立大学人文学部社会学科・首都大学東京都市教養学部都市教養学科）408, 75-93 頁

清水由里子 「ムハンマド・エミン・ボグラに関する一考察：その思想形成の背景と著作『東トルキスタン史』を中心に」『日本中央アジア学会報』5, 21-36 頁

新免康 「中国新疆のウルムチ（烏魯木齊）市の歴史の変遷」妹尾達彦編『都市と環境の歴史学・第2集〈特集〉国際シンポジウム「東アジアの都市史と環境史：新しい世界へ」』中央大学文学部東洋史学研究室（非売品），171-202 頁

新免康 「中国新疆のオアシス都市ヤルカンドとイスラーム聖者廟（マザール）」妹尾達彦編『都市と環境の歴史学・第4集〈特集〉国際シンポジウム「都市と環境の歴史学：5年間の成果」』中央大学文学部東洋史学研究室（非売品），243-254 頁

新免康 『『ターリーヒ・ラシーディー』テュルク語訳附編の叙述傾向に関する一考察：カシユガルの歴代ハーキム・ベグの部分を中心に』『西南アジア研究』70, 111-131 頁

杉山典子 「国際研究『中央アジア比較法制研究セミナー』特別案件調査団」ICD news（法務省法務総合研究所国際協力部報）38, 155-168 頁

- 須田将「ウズベキスタン共和国」松本弘編『中東・イスラーム諸国民民主化ハンドブック 2009』NIHU Program Islamic Area Studies, TIAS Middle East Research Series No.4, 274–297 頁
- Dadabaev, Timur, “Trauma and public memory in Central Asia: public responses to political violence of the state policies in Stalinist era in Uzbekistan and Kyrgyztan”『イスラーム世界研究』（京都大学イスラーム地域研究センター）3（1）, 108–138 頁
- 地田徹朗「戦後スターリン期トルクメニスタンにおける運河建設計画とアラル海問題」『スラヴ研究』56, 1–36 頁
- 長縄宣博「帝政ロシア末期のワクフ：ヴォルガ・ウラル地域と西シベリアを中心に」『イスラム世界』73, 1–27 頁
- 中島隆晴「キルギスの米軍基地閉鎖問題」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所）57（3）, 71–82 頁
- 中島隆晴「A・Q・カーンネットワーク と IMU」『海外事情』57（10）, 75–82 頁
- 中島隆晴「中央アジアと核・原子力問題」『海外事情』57（6）, 104–115 頁
- 中西健「クルグズスタンにおける国家意識：マナス英雄叙事詩と国家性 2200 年を中心に」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』9, 29–37 頁
- 野田仁「中央アジアにおける露清貿易とカザフ草原」『東洋史研究』68（2）, 1–31 頁
- 野部公一「再編途上のカザフスタン農業：1999～2007 年：「連邦」の食料基地からの脱却」『専修経済学論集』43（1）（通号 100）, 73–91 頁
- 日吉秀松「中国のエネルギー戦略と中央アジアとの経済関係」『日本大学精神文化研究所紀要』39, 103–124 頁
- 平林今日子、川野徳幸、松尾雅嗣「カザフスタン共和国セミパラチンスク核実験被害に関する近郊住民インタビュー（核の被害再考）」『IPSHU 研究報告シリーズ』（広島大学平和科学研究センター）41, 109–176 頁
- 福田浩子「中央アジア・ウズベクの刺繍布（スザニ）：アイ・パラックと呼ばれる一群について」『関西大学東西学術研究所紀要』42, 37–49 頁
- 古幡哲也「カザフスタン、アゼルバイジャン、トルクメニスタンの石油・ガスの探鉱・開発の現状」『石油・天然ガスレビュー』43（1）, 37–62 頁
- 星野昌裕「ウイグル騒乱からみる中国の民族政策」『東亜』506, 32–39 頁。
- 本多光雄「東アジア 3 国と中央アジアの関係：ユーラシアン・ランド・ブリッジへの模索」『日本大学経済学部経済科学研究科紀要』39, 131–147 頁
- 柳田賢二「ビジン・クレオール言語とコードスイッチングおよび中央アジアのリングェフランクカとしてのロシア語について」『東北アジア研究』（東北大学東北アジア研究センター）

13, 29-56 頁

湯浅剛「介入と地域メカニズムの形成：ロシア主導型地域協力枠組みの考察のための覚え書き」望月克也編『国際安全保障における地域メカニズムの新展開』（アジア経済研究所 2008 年度調査研究報告書）アジア経済研究所，31-47 頁

湯浅剛「ユーラシア国際秩序の新展開：2008 年 8 月、ロシア・グルジア紛争の衝撃」『中・東欧・コーカサス及び中央アジアから見た欧州の安全保障情勢』（平成 20 年度外務省委託研究「安全保障に関する知的交流」報告書 [主査：福島安紀子・国際交流基金特別研究員]）財団法人日本国際フォーラム，39-51 頁

湯浅剛「ソ連のアフガニスタン経験：外部勢力による国家形成への介入」『防衛研究所紀要』12 (1) , 1-28 頁

呂光洙「中国農村における教員指導力開発プログラムの展開過程の分析：新疆ウイグル自治区を事例として」『教育学研究ジャーナル』（中国四国教育学会）5, 21-29 頁

鷺尾惟子「ウイグル民間歌曲の変容と意識の方向性：ホタン民間歌曲を中心に」『内陸アジア史研究』24, 105-122 頁

鷺尾惟子「観光化によるパフォーマンス空間の変容：中国新疆・ウイグル人の民間音楽を中心に」『旅の文化研究所研究報告』17, 47-62 頁

渡辺悌二、Maksat Anarbaev、落合康浩他 “Tourism in the Pamir-Alai Mountains, Southern Kyrgyz Republic” 『地理学論集』（北海道地理学会）84, 3-13 頁

Abdurrahman Gurol 「トルコ語とウイグル語の関係節における受身形」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』27, 73-93 頁。

Gulzar Abdursul 「新疆ウイグル自治区における観光開発と貧困脱却」『国際文化学』（神戸大学国際文化学会）20, 67-85 頁

Mayira Tursun、津谷好人「農業産業化における龍頭企業と農家間の契約栽培に関する分析：新疆ウイグル自治区を事例に」『農業経営研究』47 (2) (通号 141) , 191-196 頁